

兵庫県立社高等学校第七十二回卒業証書授与式 校長式辞

暖かな日差しと春の訪れを感じさせる風が心地よく感じられる今日の良き日に、兵庫県議会議員藤本百男様、加東市長安田正義様をはじめとしますご来賓の皆様のご臨席、卒業生の保護者の皆様のご列席のもと、兵庫県立社高等学校第七十二回卒業式を執り行うことができますことは、私どもにとってこの上ない喜びであり、誠に嬉しく存じますとともに本校を代表し、深く感謝申し上げます。

先ほど卒業証書を授与しました七十二回生二百三十六名の皆さん。ご卒業おめでとうございます。職員一同、心よりお祝い申し上げます。

そして保護者の皆様、本日、お子様がご卒業を迎えられますことを職員一同お喜び申し上げます。誠にありがとうございます。本校入学以来三年間、生徒と共に過ごされた日々を思い出し、その成長を実感されていることと存じます。またその三年間、本校教育活動にご理解並びにご協力賜りましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

今年は、元号が変わり、平成に終わりを告げ令和のスタートとなった年です。私にとっても社高校でのスタートの年となりました。部活動に一生懸命に取り組む、素直で、真面目な生徒というイメージで外から見ていた社高校生ですが、実際に着任し、皆さんの活動を見ていると想像以上に力を持った生徒が多いなという実感でした。5月から始めた皆さんとの面談では、「社高校は楽しい。」と語ってくれる生徒の多さに社高校の良さはどこにあるのだろうと考えさせられました。それは文化祭や体育祭、部活動や家庭クラブでの活動に現れていました。同時に先生方の生徒一人一人を活かそうとする姿勢にも感動を覚え、素晴らしい学校だなと改めて感じた次第です。しかしながら物足りない一面もありました。皆さんとの話の中で、自分の力を十分に理解していない、最大限に自分の力を伸ばしきろうと考えていないともすれば甘いなと思わせる部分を感じることがありました。見通しの甘さや力の出し惜しみは今から社会に出て行こうとする皆さんにはしっかりと考えておいてほしいことだと思っています。面談の中では私の厳しい話し方に驚いた人もあったかもわかりません。皆さんには、自分の力を信じ、持てる力を最大限発揮しようとする、そして多くの方に協力していただけるよう感謝の気持ちを忘れず何事にも謙虚に取り組む姿勢を持ち続けて今後の人生を歩んでくれることを願っています。

さて、生活科学科の皆さんは、特別な3年間だったと思います。家庭クラブの全国大会が兵庫県であると知った上で入学され、実際に大会を迎えた今年はいかがだったでしょう。大会実行委員長であった私はどんな規模の大会かもわかっていませんでしたので、皆さんの活動だけが頼りでしたが、素晴らしい活躍ぶりで全国から来られた方々に多くの賛辞をいただきました。課題研究での商品開発や保育園、小学校での連携による活動、販売実習などすべての活動に全力を注がれ、大変忙しい高校生活だったと思いますが、その分素晴らしい思い出ができたのではないのでしょうか。そうした活動によって蓄えた力をこれからの生活に活かしてください。

体育科の皆さんは、思いを持って入学され、寮生活による一人暮らしにチャレンジした人もありました。その思いは十分に達成されなかった人もいるかも知れませんが、本当に貴重な経験を積まれたことと思います。プロ野球入りした近本選手や辰巳選手のように高校卒業後に力をつけ認められる選手もいますし、指導者として活躍する先輩も多数出ています。入学時の思いをぶつける場面はこれからも数多くあると思いますので、信念を持って自らのやるべき事をやり通してください。社高校での活動に誇りを持って、今後、活躍してくれることを期待しています。

普通科の皆さんは、3年生の最後の最後に自分らしさを出せてきたのかなという感じがしました。思い悩んだこともやる気をなくしたこともあったと思います。それでも卒業が迫ってくる中で、自分がどうすべきかが少し見えてきたように思います。面談の際、普通科の皆さんから体育祭のグループ分けについての意見がよく出ましたので、自分たちで考え、交渉するように促すと、自らグループ分けを積極的に考え先生方に思いを伝えることができました。その結果、先生方も皆さんの思いをくみ取り、グループ分けが従来通りとなり、自分たちで作上げた体育大会になった実感が持てたと思います。その交渉したときのパワーを思い出して、これから進むべき所でも頑張ってもらいたいと思います。

そんな皆さんに、「人を動かす」という自己啓発を促す著作を残されたデーブル・カーネギーという方が話された次の言葉を贈ります。「一見小さなことに全力で取り組むことを忘れるな、小さなことを一つやり遂げるたびに人間は成長する。小さなことをきちんとこなしていけば大きいことは後から付いてくる」という言葉です。日々の生活において目の前にあることに全力で取り組むことで、成長し、信頼を得、大きなことを果たす力となっていくということですが、皆さんのこれからの人生において最も大切なことだと思えます。小さなこと、当たり前のこと、できることを確実にやり遂げる経験を積み重ねていくことで自信をつけ、目標に向かっていくこと、新しいことにチャレンジしていくことが可能になってきます。皆さんは社高校で夢を形にすることの大切さを学んできました。皆さんが、社高校での経験をもとに、自らの良さを理解し、持てる力を最大限に発揮できるようこれからの人生を歩んで行かれることを期待しています。

それでは、いよいよ社高校を巣立つときが来ました。皆さんの健康と今後ますますのご活躍を職員一同祈念申し上げ、式辞とさせていただきます。

令和二年二月二十九日

兵庫県立社高等学校

校長 若浦直樹